

2005

(平成17年)

理事長 藤井祐一郎

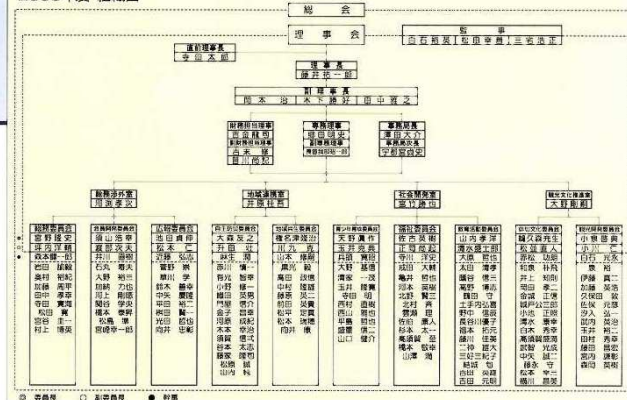


今こそ原点に戻ろう！
～このまちの子供たちの
生きる力を育むために～

2005年 松山市の動き

- 1月 松山市に北条市・中島町が編入合併
四国初の50万都市に
- 1月 松山中央公園多目的競技場完成
- 2月 定期航空路線・松山-名古屋(中部国際)
便就航

2005年度 組織図



出来事

- 1月** ●第1回定時総会・例会(本町会館)
●京都会議
- 2月** ●例会「バス・セッションを学ぼう」
(松山市総合コミュニティセンター)
●「恋は五・七・五！」愛媛県内先行ロードショー開始
- 3月** ●例会「自主防災・備えあれば憂いなし」
(松山市総合コミュニティセンター)
- 4月** ●松山春まつり お城まつり
●わかつばきファンド受給者証授与式
●公式訪問例会(松山全日空ホテル)
●第24回全国城下町シンポジウム(上田)
- 5月** ●第18回わんぱく相撲まつり
●例会「まつやま市民シンポジウムについて話し合おう」
(松山市総合コミュニティセンター)
●第35回四国地区愛媛ブロック会員大会(内子)
●第55回JCI ASPAC マカオ
- 6月** ●愛媛ブロックスポーツ交流大会(今治)
●障害者就労促進事業
●第52回四国地区会員大会(坂出)
●例会「ならぬことは、ならぬものです」
(松山市総合コミュニティセンター)
●あいあいプレキャン(松山野外活動センター)
- 7月** ●家族例会(松山市中島アミアゲビーチ)
●サマーコンファレンス(名古屋)
●第21回わんぱく相撲全国大会
- 8月** ●松山JCI創立記念パーティ
●第1回臨時総会・例会「障害者就労促進実習報告会」
(松山市総合コミュニティセンター)
●第8回俳句甲子園(優勝・開成高等学校)
●第4回わんぱくセミナー(北条スポーツセンター)
- 9月** ●第22回まつやま市民シンポジウム
●第2回親守歌コンサートin大街道2005
●例会「スポーツで夢のある青少年育成を推進しましょう」
(松山市総合コミュニティセンター)
●第54回日本JCI全国会員大会(姫路)
- 10月** ●例会「俳句甲子園の行方」(松山市総合コミュニティセンター)
●第60回JCI世界会議(ウィーン)
- 11月** ●第5回新入会員カリキュラム
●四国地区愛媛ブロック協議会
●第2回定時総会・例会「踊りを通じて出来る地域の活性」
(松山市総合コミュニティセンター)
- 12月** ●例会「卒業式・懇親会」(松山全日空ホテル)

青年会議所 第1回定時総会



▲1月 第1回定時総会・例会で挨拶する藤井理事長



▲4月 観客に手を振る加藤嘉明 (松山春まつり)

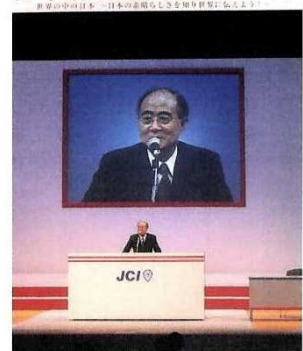


▲5月 土俵の上に参加者全員整列 (わんぱく相撲)



▲6月 日頃の運動不足を解消 (スポーツ交流大会)

日本再発見フォーラム



▲7月 サマーコンファレンス



▲8月 子供たちも楽しみのわんぱくセミナー



▲8月 愛媛県武道館で開催された第8回俳句甲子園決勝



▲9月 第2回親守歌コンサートin大街道2005



▲9月 講演するNHK住田アナウンサー (市民シンポジウム)



▲12月 例会「卒業式・懇親会」

社団法人松山青年会議所2005年度理事長所信

社団法人松山青年会議所

藤井 祐一郎

『今こそ原点に戻ろう！』 ～このまちの子供たちの生きる力を育むために～

【はじめに】

人口構造の急激な変化の下での技術革新や情報化・国際化などの目まぐるしい変化はこれまでの日本の社会を支えてきたいろいろな仕組みを揺るがし、青少年による犯罪、不登校、ひきこもり、家庭における児童の虐待など様々な社会問題をひき起こす原因になっています。想像を絶するような事件や出来事が毎日のように報じられており、そのなかでも人の命にかかわる悲惨な事件がことごとくに目につきます。多くの子供や、女性、老人など弱い立場の人々に危害が及ぶことも決して稀ではなく、ごく普通の子供が信じられないような重大な事件を起こしています。また、社会現象としても6年連続で毎年3万人を越える自殺者の数を報じる新聞記事。世界でトップの長寿大国日本は、また世界で有数の自殺大国であるといえるのです。それと同時に、近ごろ私たち日本人の「生きるエネルギー」が急速に低下してきたのではないのでしょうか。

不景気やデフレが続いているとはいえ、歴史を振り返ってみると今よりはるかに大変な時代がこれまでに何度となく、あったように思います。黒船を見ながら愕然とし維新によってはじめて近代的な国家を目指した。祖国の主権を守るために、庶民は重税にあえぎながらも西洋列強に追いつき追い越そうとした明治の時代。戦争により日本の大都市が破壊し尽くされ、焼き尽くされた。食糧不足・超インフレ、焼け跡には戦災孤児があふれ経済的にも社会的にも実に苦しい戦後間もない昭和の時代。しかし、なぜか当時の日本人には不思議な明るさがあり、人々の生き抜いていこうというエネルギーがギラギラ輝いていたような気がしてなりません。今よりもはるかに元気だったような気がするのです。

もう一度、日本人として「私たちの持っているチカラ」を信じ、それを伸ばしていく、かけがえのない命の大切さを理解したうえで、いまという時代を『生きる力』を子供たちと一緒に育むことこそ、大人社会に求められていることだと思えます。

生きる力とは、身体生命の維持ということだけではありません。いかに社会が変化しようと、自らの課題に対し主体的に問題を解決する資質や能力、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性。そして、たくましく生きるための健康や体力。それぞれが重要な要素であると考えられます。まさしく、教育の最終的な到達目標は「生きる力」の育成にあると思えます。

【求められている姿】

日本の青年会議所は、戦後間もない極めて苦難に満ちた状況の中「新日本の再建は我々青年の仕事である」と、壮大なる「志」のもとに同志相寄り1949年9月3日、東京青年商工会議所(商工会議所

法制定に伴い青年会議所と改名)を設立したのが始まりです。

敗戦の絶望的な状況の中から、もう一度この国を明るい豊かな一流国家として再建させたい。それは、今日を生きるために日々汗を流している若手経営者達のやむにやまれぬ情熱が生み出した自然発生的運動でありました。このような中、松山青年会議所は1952年8月1日42名の同志と共に日本で37番目の青年会議所として誕生したのです。

自分たちの力で、戦後の廃墟からすばらしい勢いで立ち直った当時の日本。今一度その当時の人々が何を考え、何を行ってきたのか、私たちなりに考え直す必要があると思います。その上ですべてを否定するのではなく、原点に戻り、日本に成功をもたらした方程式を再び学ぶことが重要だと考えています。

いま時代は、先人や先輩諸氏のように高い志を持ちひたむきに努力する、たのもしい人材と組織を必要としています。幾多の困難に立ち向かい夢を描いて乗り越えていく、このまちの子どもたちの未来のために、自信を持ち具体的な努力を貫き通せる人材と組織。それが今、われわれ(社)松山青年会議所に求められている姿だと実感しております。

【大きな背中】

『人間に生まれてくれば人間になる』という認識は致命的な誤りです。子供一人を立派な人間として育て上げるのは、親の責任であり、教育によってのみ成しうることだと思っています。私たちは子を持つ親の世代として教育に積極的に関わらなければなりません。

また、子供にとっては親が人生最初の教師であることを自覚することが大切であり、親の責任のもとで「良いものは良い」「悪いものは悪い」といえる「価値観」を育んでいくことが非常に重要なことだと思います。

「子供は親の言うとおりにせず、親のやるとおりにする」といわれています。まさしく「子は親の鏡」です。家の玄関の靴をきちんと揃えない子供が公共の場で自分の脱いだ靴や、スリッパを揃えるでしょうか。大人も同様です。私たち親自らが子供の目標となりうる「大きな背中」を持ち、大人として自律する。そして子供とともに学び、考え、家庭・地域のリーダーとしての自覚を持ち、自信と責任を持った行動をする。親として、大人として、あたりまえのことをあたりまえにしてみせる必要性を強く感じています。

いかなる場合も子どもたちと向き合い、心を育てる場としてもう一度、家庭教育を見直す必要があります。社会を構成する基本的な単位であり、子供たちが最初に出会うコミュニティが家庭です。家庭の中で『義務を・責任を果たすこと』『与えられら義務・責任を果たさないものには権利の主張を許さない』ということを親が子供にきちんと理解させる。教育で最も重要なことは躰です。子供の躰は親の責任であると同時に社会に対する義務であり、子供の健やかな成長による喜びや楽しみは、親のみに与えられた特別な権利といえるのではないのでしょうか。

このまちの子供たちと「心と体を鍛える」ことによって彼らの豊かな人間性と生きる力を育てていきたいと思っています。子供はそれぞれの家庭の子供であると同時に、郷土を担いこの国の将来を担子供は親の責任であると同時に、郷土を担いこの国の将来を担っていく、人類共通の希望であるといえるのですから。

【地域のつながり】

日常の生活ではいくつか生活の拠点としている場所（地域）があります。家族と共にすむ「家」、経済活動を営む為重要な「会社」。そこでくらす家族の一員として、大人として、親として、青年経済人として、JCメンバーとして、身近な地域を活性化し、良い地域コミュニティの実現に向けて努力する必要があると考えています。

私たちが「明るい豊かな社会の実現」を目指して取り組んでいる、福祉・教育・青少年育成・文化発信・観光推進などの様々な事業に関しても、地域の活性化は非常に重要だと思われます。地域内での日常の生活における人々の交流は、いろいろな面で普段の暮らしをより豊かにするとともに、私たちが目指すまちづくりの実現のためにも不可欠であるといえるでしょう。

私たちは地域・社会というつながりの中で生きています。一人一人がお互いに尊重し、個性や能力に応じて参加できる地域社会を目指すためには、人間同士のふれあいを大切にしたみんながともに支えあう地域福祉に取り組む必要があります。また、地域の子どもたちは地域社会全体で育てていくという認識をいっそう深めるとともに、このまちに住む私たちに先人が残してくれた、おせったいや俳句などにみる豊かな精神性、地域の歴史や伝統文化、を後世に継承するように努めなければなりません。

また、地域の活性化のためには「災害に強いまちづくり」が不可欠です。地域における人の和、人の絆は、災害が発生した時に人の命を救う上でたいへん大きな力を発揮します。

21世紀前半に非常に高い確率で発生するといわれる南海・東南海地震。その規模は非常に大きいといわれています。今の私たちの備えは万全なのでしょうか。災害が大きくなればなるほど、被災者は膨大になり情報は混乱します。道路や橋梁等の公共施設が被害を受けると、災害発生直後の初期活動において、自衛隊も警察も消防も適切で迅速な対応が非常に困難となります。そのため、人命救助や初期防災活動は地域住民の協力が非常に大きな役割を果たします。

地域の住民の力は、災害は防げなかったとしても、その被害はできるだけ小さくすることができるのです。住民自らが、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識をもって、地域の自主防災体制を確立する必要があると考えます。しかしながら、現在の松山市や愛媛県の自主防災組織の結成状況は全国平均を大きく下回る結果となっており、私たち住民自らの意識の高揚や災害対策の必要性を痛感しております。また、災害発生時に行政と民間がパートナーシップのもと、お互いの役割や機能を十分に発揮できる仕組みを作る必要があるとも考えられます。

みんなの住んでいるこのまちを「災害一つで立ち直れないまち」にしないために、本年度(社)松山青年会議所として地域防災のための自主防災活動に積極的に取り組みたいと思っております。

【おわりに】

強い地域、強い組織を作る為には、そこに強い人材を育てる必要があります。「企業は人なり」とよくいわれます。人間社会の中での組織の強化は、手段や方法を伴う人材の強化であり、組織の良し悪しは最終的にはそこに集まる人間の良し悪しで決まるともいえます。(社)松山青年会議所が強い組織であり続けるために、会員の資質向上・相互研鑽には弛まない取り組みを必要とします。

青年会議所の「奉仕・修練・友情」という三信条について、一人のメンバーとして考えてみると、「青年会議所は、私たち青年の自己啓発と修練の場であり、そこで行う修練のための社会への奉仕であり、さまざまな修練を重ねていく上で得られた深い友情である。」ということもできるのではないのでしょうか。青年会議所運動とは、地域や社会のためになるいろいろな提案や事業を通じて行う、自分自身のためのリーダーシップトレーニングだと思っています。

JC メンバー一人一人の努力は、青年会議所という組織のもとで事業や活動の成果として、さまざまな方面から認知され、期待されています。一人の、ひとつの、小さな取り組み、頑張りが、まち(地域)や社会を変えていく。だからこそ今一人一人の責任と自覚が問われているのです。

仕事においても青年会議所運動でも、何を行うに付けて「腹をすえる」ということはなかなか難しいことです。しかし、自ら行うことを決意したのであれば、何事にも腹をすえて取り組む必要があります。自分の意思で自分の責任を全うする。青年会議所の一員として、元気を出して自らが果たすべき責任に厳しく取り組みましょう。限られた時間、確固とした目的をもって、志を同じうする仲間とともに力をあわせ、あくまでも前向きに精一杯活動しましょう。きっとそこにはやり遂げたものだけが味わえる至上の喜びが待っているはずです。